

- 7 友達に優しくしてあげたり、助けてあげたりしたことはありますか。
- ・はい 6人 ・いいえ 3人(何もすることがない、何をしたらいいのかわからない、無答)
- 8 どんなことをしてあげましたか。
- ・給食をいっしょに運んであげた3人 ・クレヨンを拾ってあげた1人 ・ぶつかった人を助けた1人
 - ・意地悪した人に注意した1人
- 9 どうしてしてあげようと思いましたか。
- ・一人じゃ無理だから、風邪引きの人にさせられないから3人 ・いっぱい落ちたから手伝った1人
 - ・かわいそうだったから1人 ・優しくしてあげよう、遊んであげようと思ったから1人
- 10 誰かに優しくしてもらったり、助けてもらったりしたことはありますか。
- ・はい 8人 ・いいえ 1人(なにもきにしらない)
- 11 それは、どんな時だったでしょう。
- ・一輪車の時おさえてもらった1人 ・落ちて転んだとき助けてもらった1人 ・片付けてもらった1人
 - ・泣いているときどうしたのと言われた1人 ・いっしょにあそぼと言われた1人
 - ・助けてもらった1人 ・弟にせんべいをもらった1人
- 12 してもらったらどんな気持ちになりましたか。
- ・うれしかった、楽しかった、心が温かくなった5人 ・優しい子だなと思った2人
 - ・ありがとうと思った1人

生活実態調査から、「身近にいる幼い人や高齢者に優しくしたり、助けたりしようと思っている」児童が多いことがわかった。反面、小さい子に接する機会が少なかったり、お年寄りが弱い立場であるという意識が薄かったりする児童もいた。比較的、小さい子には何かしてあげようという気持ちはあるが、お年寄りにはしてもらっているという意識が強い。身近な友達については、しっかりしている女子の前では、やることがない・何をしたらいいかわからないという男子の構図がみえてきた。しかし、誰かに優しくしてもらおうと嬉しくなったり、いい気持ちになったりする経験をほとんどの児童もっている。設問すべてについて「いいえ」と答えた児童が一人いた。

本単元では、「動機付け」の段階で、オリエンテーション「あたたかいところで」や道徳の時間「親切な心で」において、相手の気持ちや立場を思いやり、進んで親切にしようとする心情を育て、「広げる・深める」につなげていく。「広げる・深める」段階では、授業を通して身近な人たちに温かい心で接し、親切にしていこうとする心を持つことが大切であることを感得させていく。それとともに、「高まり」の段階では、学習発表会や校内球技大会の取り組みを通して友達に優しく接し言葉がけをしたり、励まし合ったりしようとする尊さを体験させ、実践的な態度を身につけさせていきたいと考える。道徳の時間の位置づけとしては、総合単元の中に関連する指導項目の学習を3時間設定した。「はしのうえの おおかみ」では、身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てることをねらいとし、身近にいる幼い人や高齢者だけでなく、広い範囲の人に目を向けていくようにする。「二わのことり」では、友達と仲よく助け合っていこうとする心情を育てることをねらいとし、友達のことを思って行動するみそさざいの姿を捉えさせていく。「ぼくのはなさいたけど」では、身近な人たちに温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を育てることをねらいとし、相手のことを考えて行動をすることの大切さを実感させていく。これら、3つの学習を総合単元と関連させながら、児童のあたたかいところに対する思いを育てていきたい。

また、評価については、中期的・長期的な捉え方をしていく。中期的には、この総合単元を通して、書く活動を重点化し、記録をとり、児童の変容をみとるようにする。教室には、道徳の時間と教科・特別活動・日常活動などと関連をもたせながら、児童自身が高まりを実感することができるような掲示を工夫することで評価していく。長期的には、本総合単元は、別紙「道徳の学級における指導計画」の第2学期にあたることから、学級経営の根本から道徳の授業を考えるように評価を取り入れていくことを考えている。

4【総合単元の構想】

学習のテーマ： あたたかいところでなかよく

段階	時期	児童の意識の流れ	教科等	特別活動	日常活動	家庭・地域	
価値の動機付け	10月1週	<ul style="list-style-type: none"> 自分より小さい人やお年寄りには困ることが多いんだ。 祖父母学級では、おじいちゃんやおばあちゃんと楽しく遊んだ。 自分の身のまわりにいる人にも親切にしていこう。 	オリエンテーション・心のノートP38・39「あたたかいところで」自分より小さい子やお年寄り、友達などに温かい心で接する事の大切さに気づく。				
	10月3週	<ul style="list-style-type: none"> だれに対しても、進んで親切にしてあげることが大切だね。 学習発表会をみんなで成功させようね。 	道徳の時間（1時間） 主題名 親切な心で 2 - (2) 思いやり・親切 資料名 はしのうえのおおかみ（東京書籍） ねらい 身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。				
価値の広がり・深まり	11月2週	<ul style="list-style-type: none"> 友達と力を合わせて発表することができたよ。 協力して練習するといいい気持ちだね。 あたたかい言葉をもらってうれしかった。 	【生活科】「いきものをそだてよう」 ・朝顔や小動物の世話を通して、生命の大切さに気づく。	児童会球技大会 ・チームで力を合わせよう 心のノートP40 ・友達と協力することの大切さに気づく。			学級通信 ・子ども達の協力の様子を知らせる。
	11月本時の学習	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考えることが大切なんだ。 お互い理解し合うことが大切だね。 友達にあたたかい心で話しかけよう。 相手のことを考えて親切にしよう。 	【体育】「マラソン」 ・お互いを励まし合って走ることができる。	【収穫祭】 ・みんなで力をあわせて、収穫祭の準備をする。 ・お世話になった人たちに感謝する	帰りの会 ・友達とはげましあって練習している様子を交流し合う	学級通信 ・子ども達の言葉かけの様子を知らせる。	
道徳的実践意欲の高まり	12月1週	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人にあたたかい心で接しよう。 自分のあたたかい気持ちを手紙で表そう。 	【国語】 「ずっと、ずっとだいすきだよ」 ・場面の様子や登場人物の行動を考えながら読む。 ・エルフに手紙を書く。			【はがきでこんにちは】 ・お年寄りに心を伝えよう ・はがきで心の交流をする。	
			身近な人たちに温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする子ども				

5 本時の学習

(1) 主題名 思いやりの心 2 - (2) おもいやり・親切

(2) 資料名 「ぼくのはな さいたけど」(出典:「どうとく 1年」東京書籍)

(3) ねらい 身近な人たちに温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を養う。

(4) 主題設定の理由

ア ねらいとする価値

指導内容・低学年2 - (2)は、「身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする」である。この内容は、他の人に接するときの基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心をもち実践のできる児童を育てようとするものである。低学年の「身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする」という内容を受け、中学年では、「相手のことを思いやり、親切にする」へと広がっている。そして、高学年では「だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする」と、内容が更に深まる。どのように対処することが相手のためになるのかをよく考え、思いやりや親切な心を児童が接するすべての人に広げ発展していくようにねらいが高まっていく。

良い人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。具体的には、相手に対して温かく接することや、相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為をとることが必要になる。この発達段階の時期においては、特に身近にいる幼い人や高齢者に目を向け、だれに対しても温かい心で接し、親切にする心情を育てることは、現在の子ども達には特に大切なことである。

この時期の子ども達は活動的で、友達との遊びが大好きである。友達との交流が盛んになり、遊びも集団化したものになって、その中に喜びを感じ始める時期でもある。しかし、他の人々の心を思いやったり、自分が何かをしてあげようとしたりする等、配慮することができず、自己中心的な態度をとってしまうことが多い。自分よりも弱い立場の幼い人や高齢者に目を向け、優しくしていこうとする心情をもつことは、相手の気持ちを理解していこうとする初期段階として大切なことである。また、友達は家族とはひと味違った他者として大切な存在である。このような人間関係を通して、子ども達は、人と人を結びつける絆をつかみ、身近な人への思いやりをもち、親切にしていくことの価値に気づいていくものと思われる。

本時では、「広める・深める」段階の道徳の時間として「動機付け」段階の「道徳の時間」でつかんだ「やさしい思いやり」の心情を土台に、総合単元で組んだ活動と関わらせながら、身近な人に温かい心で接し、親切にしようという心情を養うものである。

イ 児童の実態

子ども達は、身近な幼い人や高齢者を大切にし、思いやりをもって親切にしていくことが大切であるということはよく分かっている。ほとんどの子ども達は友達の困っている姿を見ると、かわいそうだという反応を示す。また、給食当番や係の仕事など、都合で自分の仕事が出来ない子のかわりにお手伝いをしたり、怪我や具合の悪い子の面倒を見たりする姿が見られるようになってきている。しかし、そのような場面を詳しく見ていくと、率先して友達のために動いているのではなく、周りから言われたり教師からの賞賛を期待したりして行動している様子が見られる。また、学級遊びという集団関係づくりに適した取り組みをしている中で、自己主張がぶつかり合

い、喧嘩になってしまうこともよくある。

また、「思いやり・親切に関するアンケート」から、自分の身近にいる幼い人や高齢者に目を向け温かい心で接する気持ちをもっている児童が多いことが分かった。合わせて、友達に優しくしてあげたり、助けてあげたりした経験をもつ児童が多いことも分かった。反面、自分のことを自分であることができる女子児童に対して、何もしてあげられないという気持ちでいる男子児童の意識が明らかになった。自分が親切にされて嬉しいという感情をもっていることを大切に、相手に対しても温かい心で接する機会をもつよう生活経験を増やしていくことが必要と思われる。また、設問中4問とも「いいえ」と答えた児童がいる。「どうするかなあ。」と迷うことが多く、児童と保護者の接する時間が少ない家庭環境からも道徳的判断力が十分育っているとは言えない。普段の生活経験を増やし、道徳的な価値を教えていき、自分の生き方に自信をもたせていくことが必要と思われる。

このような子ども達に自分の感情や利害関係に関わらず、相手の立場になって考え、だれに対しても温かい心で接し親切にすること心情を育てることは、発達段階初期として意義があると考ええる。

ウ 資料について

本資料は、「子グマのトトが、母の誕生祝いに育てていた花を、もぐらのモイラが病気の母のために摘んでしまう。最後に残った2本の花のうち、1本をモイラに残してうちへ帰る。たった1本の花のプレゼントになったが、わけを聞いた母は、とても喜んでくれた。」という内容である。

トトの温かい思いやりの気持ちが文章全体にあふれ、児童に感動をあたえる資料である。また、トトの心遣いや行為を追体験しながら、温かい心で人に親切にすることの気持ちよさや相手のことを考えて行動することの大切さを育てるのに適切な資料である。

エ 指導について

導入では友達に思いやりをもつことや親切にすることを想起させ、本時の価値への意欲付けを図る。

展開前段では、教師の範読を聞き、感想を出し合いながら主人公のトトがモイラのために花を残したのはなぜか考えていくよう共通意識をもたせる。話の展開からは、トトが母の誕生日プレゼントのため、一生懸命花畑の世話をする気持ちに十分共感させる。そして、もぐらのモイラが花を摘んでしまった時のがっかりした心情に気づかせていく。中心部分では、とうとう二つだけになってしまった花のうち、一本をモイラのために残しておくトトの気持ちを十分に考えさせていく。最後に二人の母が喜んだことを知り、自分の行為が清らかなものである確信をもった心の変化を感じ取らせる。

展開後段では、今までの生活を振り返り、友達に親切にしようと思った経験や親切にされた経験を道徳プリントに書かせ、自分の一方的な思いやりではなく、相手のことを考えて温かい心で接することの大切さを感得させたい。

終末では、児童の生活から、友達に親切にしていた事例を紹介し、温かい心で接することの大切さを意識付けさせ、これからの学校生活などへの取り組みや実践への意欲付けを図る。

(5) 本時の展開

ねらい：身近な人たちに温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を育てる。

段階	学習活動 主発問・補助発問	予想される児童の反応(・)	活動への支援()と評価()
導入 5分	1 「思いやり・親切」について話し合う。	・教科書を忘れたときに貸してもらった。 ・落としたときに拾ってあげた。	本時の価値への方向付けを図る。
展開 前段 20分	2 資料「ぼくのはなさいたけど」を読み話し合う。範読を聞いて、感想を話す。課題を設定し、共通の意識をもつ。	・モイラにお花を残してあげてトトは優しい。 ・たった一本だけとお母さんが喜んでくれてよかった。	感想を話し、学習について共通意識をもつ。 母のために一生懸命花畑の世話をするトトの気持ちを捉えさせる。 せっかく育てた花を摘まれてしまったトトの気持ちを捉えさせる。 二つの花のうち一つを残したトトの気持ちを考えさせる。(役割演技) お母さんの話を聞いて、自分の行為が価値あるものであることに気づいたトトの気持ちを考えさせる。 モイラのことを考えて花を一つ残しておいたトトの心情をつかむことができたか。
	トトがお花を一つのこしておいた気持ちをかんがえていきましょう		
	・トトは、どんな気持ちでお花をせわしていたでしょう。		
	・お母さんにたくさんプレゼントするぞ。 ・お母さんに喜んでもらおう。 ・ぼくが一番すてきなプレゼントをするぞ。		
	・モイラが花を取りに来たとき、トトはどんな気持ちになったでしょう。		
	・ぼくのお母さんにあげるんだよ。 ・とっちゃだめだよ。 ・あ～あ、せっかく育てたのに。		
	トトが「ひとつのこしておくよ。」と、大きな声で言ったのは、どんな気持ちからだったでしょう。		
・モイラのお母さんにもあげてね。 ・お母さん、元気になるといいね。 ・モイラのお母さん喜ぶといいね。			
・お母さんの話を聞いて、トトはどんな気持ちになったでしょう。			
・お母さん、一本でも喜んでくれた。 ・そうか、二人のお母さんが喜んでくれたんだ。 ・モイラにも残してあげてよかった。 ・モイラのお母さんも喜んでくれたんだ。			
展開 後段 15分	3 本時の価値に照らして、これまでの自分の生活を振り返る。	・トトに言ってあげたいことも書く。	今までの自分の考えや行動について見つめさせ、資料で学んだ道徳的価値を捉えさせる。友達など相手のことを考えて身のまわりの人に温かく接していこうとする心情が高まったか。
・自分が今までにだれかのことを考えてやさしくしてあげたり、たすけてあげたりしたことを書きましょう。してもらったことでもいいですよ。			
終末 5分	4 教師からみんなの様子について聞く。	・配り係が忙しいときに手伝ってくれた様子。 ・来年の1年生のために球根を植えている様子。	相手のことを思いやり、温かく行動している友達について語る。

(6) 評価

友達など身近な人に温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする気持ちになったか。

(7) 板書計画

おもいやり … なにかをしてあげること・たすけてあげること
しんせつ

場面

- ・じぶんのおはなをあげてよかった。
- ・モイラのおかあさんもげんきになるよね。
- ・モイラのこともかんがえてあげてよかった。

場面絵

一つのじつておくよ

- ・おかあさんに あげてね。
- ・おかあさん はやくよくなるといいね。
- ・モイラも げんきになってね。

場面絵

モイラのお母さん
病気

- ・おかあさんにプレゼントするんだから
せつかくそだてたんだよ。
- ・とっちゃだめだよ。

場面絵

大きなはなたば おかあさんにあげるんだ

- ・おかあさんよろこんでくれるかな。
- ・すてきなプレゼントにするぞ。

ふたりの おかあさんが よろこんだ

ほくのはな とっちゃだめ

あいてのこと
おもいやり しんせつ

モイラのことをかんがえた

たいせつなもの


プレゼント

道徳プリント


【ふりかえり】
トットにいつてあげたいことをかきましょ。

「ほくのはな さいたけど」
なまえ


「ありがとう」

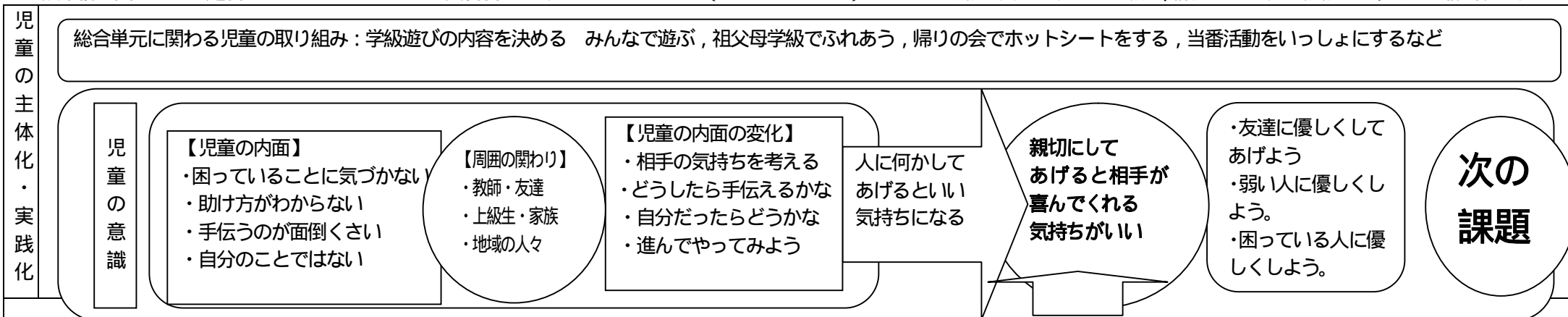


「どんなきもちになったか かきましょ」



「だれかにやさしくしてあげたり たすけてあげたり
したことをおもいだしてかきましょ。やさしくされ
たことでもいいですよ。」

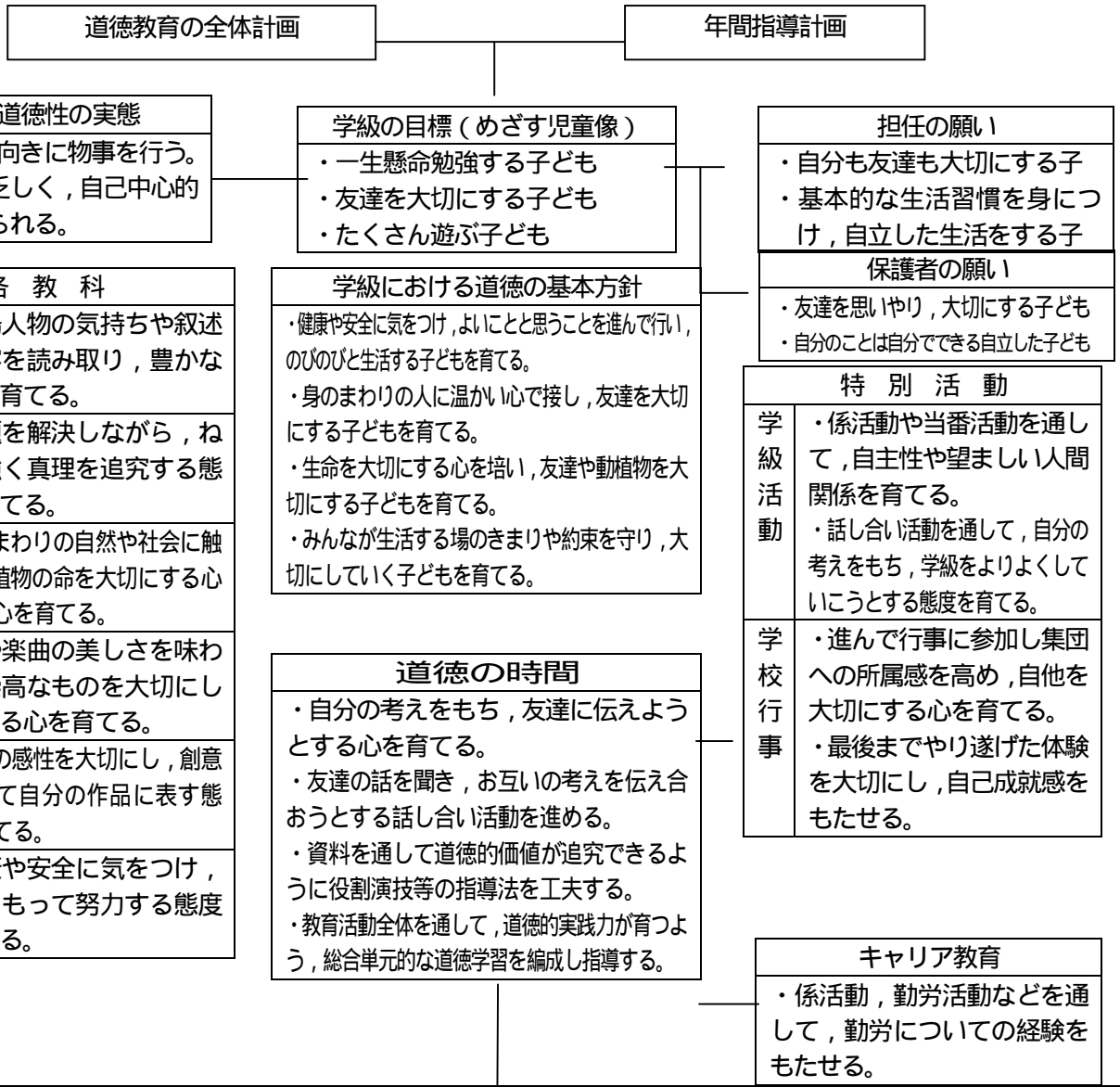




授業・発問・児童の反応	「親切」ってどんなことだと思いますか。	トトは、どんな気持ちでお花をお世話していましたでしょう。	モイラが花をとりに来た時、トトはどんな気持ちになったでしょう。	トトが、「ひとつのこしておくよ。」と、大きな声で言ったのは、どんな気持ちからでしょう	お母さんの話を聞いてトトは、どんな気持ちになったでしょう	自分がその人のことを思って親切にあげたことはどんなことですか。どんな気持ちだったでしょう。	教師が子ども達の親切の様子を知らせる。 ・励ましている場面 ・助け合っている場面など
	・何かしてあげること ・いいことをしてあげること	・お母さんにたくさんプレゼントするぞ。 ・お母さんに喜んでもらおう。 ・ぼくが一番すてきなプレゼントをするぞ。	・とっちゃんだめ。 ・ぼくのお母さんにプレゼントするんだよ。 ・せっかく育てたのに	・モイラのお母さんにもあげてね。 ・お母さん、元気になるといいね。 ・モイラも元気出してね。	・お母さん1本でも喜んでくれた。 ・二人のお母さんが喜んでくれたんだ。 ・モイラに残してあげてよかった。	・給食当番の時、友達の分を運んであげた。 ・友達に教科書を見せあげた。	
場面	トトがお花をひとつのこしておいたきもちをかんがえていきましょう。	お母さんのためにお花畑を世話するトト	花をとったモイラをしかるトト	モイラのために花を一つ残しておくトト	お母さんに1本だけの花をプレゼントするトト	* 自分の行動を振り返る。	
資料主人公の様子価値	秘密の場所に花畑をつくったの ・お母さんの誕生日。咲いた花全部で大きな花束をあげる。	秘密の場所 期待 秘密 思いやり	花が減っているもぐらの女の子だった ・へんだな。しらべてみよう ・ぼくのはなをとっちゃんだめ。	怒り 失意 相手の理解	日曜日、二つの花がきれいにさいていた 「ひとつのこしておくよ。」 ・モイラの顔がうかんできた。 ・ひとつ残しておくよ。おかあさんにあげてね。	やさしさ 思いやり 我慢	
					悲しくなって泣いちゃった。 「あなたのお花で二人のおかあさんが喜んだ。」 ・ぼくは、はなが一本だけ。 ・お母さんの話を聞いた。 ・ふたりのお母さんが喜んだ。	相手を思う親切 優しい心 思いやり	

道徳教育の学級における指導計画

1年 男3名 女6名
学級担任 千葉芳恵



	1学期	2学期	3学期
総合単元	1 ねんせいになったよ	あたたかいこころでなかよく	いのちありがとう
道徳的な学習	ねらい みんなで使うものを大切にし、集団生活に必要な約束やきまりを守ろうとする心情を育てる。 内容項目 4 - (1) 公德心・規則の尊重	ねらい 身近にいる人々に温かい心で接して親切にし、友達も大切にしようとする心情を育てる。 内容項目 2 - (2) 思いやり、親切 2 - (3) 友情・信頼、助け合い	ねらい 生きるものすべてに生命があることに気づき、生命を大切にしようとする心情を育て、家族や身のまわりの人たちに感謝しようとする気持ちを育てる。 内容項目 3 - (2) 生命尊重

